

2018年度 第2回 鋼構造座屈小委員会議事録(案)

1. 日時 平成30年11月9日(金)14時00分～16時00分
2. 場所 名古屋工業大学 24号館1階114室
3. 出席者 井戸田秀樹, 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 倉田真宏, 木村祥裕, 城戸將江,
末岡利之, 田川浩, 竹内徹, 中澤祥二, 松井良太, 金尾伊織(記録)
オブザーバー 佐藤篤司, 佐藤公亮 (敬称略, 下線は欠席者)

4. 配付資料

- 02-01 2018年度第1回鋼構造座屈小委員会議事録(案)
- 02-02 高強度鋼材を用いたスラブ付H形断面合成梁の静載荷試験 (宇佐美)
- 02-03 柱梁接合部により反り拘束されるH形鋼梁の横座屈荷重に及ぼす連続補剛材による座屈変形拘束効果の解明 (木村)
- 02-04 座屈に関する研究 (城戸)
- 02-05 任意の境界条件におけるH形鋼梁の弾塑性横座屈耐力 (井戸田)

5. 議事内容

資料02-01

- ・ 資料02-01に基づき前回議事録の確認を行い, 了承された。

資料02-02

- ・ 資料02-02に基づき宇佐美委員より, 高強度鋼材のスラブ付H形断面合成梁の静載荷試験に関して知見が紹介された。
- ・ 高強度鋼材では, スタッドの数がスラブの拘束効果に影響を与えるという知見が説明された。

資料02-03

- ・ 資料02-03に基づき木村主査より, 梁両端の反り拘束の境界条件を考慮した連続補剛された梁の横座屈強度および補剛力について知見が紹介された。
- ・ 柱による反り拘束の効果は無視できないこと, 折版屋根のネジ部で強度が決定され, 仕様によっては曲げ剛性は極めて低いことが説明された。

資料02-04

- ・ 資料02-04に従い, 城戸委員から, 柱の座屈長さ係数に関する研究および弾性座屈荷重と補剛剛性に関する研究が紹介された。
- ・ 修正Gファクター法が紹介され, 精解に近い座屈長さを示すことが説明された。

資料02-05

- ・ 資料02-05に従い, 井戸田委員から, 任意の境界条件におけるH形鋼梁の弾塑性横座屈耐力に関する研究が紹介された。
- ・ 等曲げを受ける梁の任意の境界条件における弾性横座屈耐力評価式, 境界条件を考慮したモーメント修正係数 C_1 係数が提案され, それらの評価は妥当であることが説明された。

6. 次回小委員会予定

座屈小委員会 : 2019年2月14日(木) 14:00~16:00 京都工芸繊維大学 KIT倶楽部2F
WG : 2019年2月14日(木) 16:00~18:00 京都工芸繊維大学 KIT倶楽部2F